佐賀新聞　2012年12月8日(月)17

地域社会の要請に応える「実践的な医療人」を養成してきた佐賀大学付属病院

佐大スケッチ

# 県推薦入学特別枠　医師不足解消へ連携

医師不足のニュースを毎日聞く。県内の医師不足解消のため、県と佐賀大学は医学部入試に「佐賀県推薦入学特別選抜枠」を設ける協定を結んでいる。県の推薦者選抜試験を通った人は、大学が行う他の受験生とは違う試験を受ける。こうして二人の合格者が決まる。この学生は卒業後、県が指定する医療機関で臨床研修を受け、県内で六年間の医療活動が義務づけられている。

佐賀大学医学部は開学以来、地域社会の要請に応える「実践的な医療人」を養成してきた。平成二十年度からは、さらにそれを進め、これまで五年次から始めていた臨床実習を、一、二年次から「医療入門」、三、四年次では「臨床入門」として早めに地域の医療現場に出し、積極的に体験学習や臨床技能訓練を行うようにした。付属病院にある「卒後臨床研修センター」では、医師たちの生涯にわたる研修のサポートや専門医を育てるための研修プログラム作りが行われている。

このセンターには付属病院で臨床研修中の医師たちの机やロッカーがあり、臨床科を越えた情報交換の場になっている。副センター長の江村正准教授との話が終わった午後九時を過ぎても、何人もの医師たちが出入りし、呼び出しの携帯電話が鳴り続けていた。医師不足の原因の一つに研修制度の変化が挙げられているが、佐賀大学では以前から四割の卒業生が付属病院を研修先に選んでおり、全国的にも高い割合である。

江村先生は医学部の三つの使命である教育、研究、診療の全てを個々人の医師が担うのではなく、組織としてそれを果たす仕組みづくりと、医師のライフステージごとに働き方を選択できるモデルづくりが、医師不足解消のためにも必要であると思っている。

（佐賀大学理事・北島悦子）

※次回は二十二日の予定です。